

平和学習

「旧海軍司令壕」

令和7年6月21日（土）から22日（日）にかけて、留学生を対象とした必須科目「日本事情Ⅰ・Ⅱ」の一環として、平和学習を実施しました。

初日の21日には、沖縄県豊見城市にある旧海軍司令壕を訪問。事前の講話を通じて歴史的背景を学んだ後、壕内を見学し、戦争の悲惨さと平和の尊さについて深く考える機会となりました。

翌22日には、学生たちがそれぞれの視点から「平和」について発表を行い、互いの考えを共有しました。2日間を通して、過去の歴史に触れながら、未来への平和のあり方を考える貴重な学びの時間となりました。

21日、沖縄県豊見城市にある「旧海軍司令壕」を訪れました。見学前にはミニ講話を受け、当時の歴史的背景や壕の役割について学ぶことができました。

その後、実際に壕内へ。作戦室、司令官室、暗号室などが今もなお残されており、戦時中の緊迫した空気がひしひしと伝わってきました。壁に刻まれた痕跡や狭い通路を歩きながら、当時の兵士たちの思いに触れるような感覚を覚えました。

この見学を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて実感することができ、大変貴重な体験となりました。未来を担う私たちが、過去の教訓を胸に平和への思いを深めていくことの大切さを感じました。



旧海軍司令壕の見学を終えた後、糸満青少年の家にて、学んだことを振り返りながらまとめ作業を行いました。

戦争の歴史に触れた貴重な体験をもとに、発表に向けて準備を進め、史料づくりにも取り組みました。



22日、前日に行われた旧海軍司令壕の見学を踏まえ、留学生による「戦争と平和」をテーマとした発表会を開催しました。

タイ・インド・ミャンマー・マレーシア・ラオス・イランそして日本、それぞれ異なる文化や価値観を持つ学生たちが、戦争の悲惨さや命の尊さについて真剣に向き合い、自らの言葉で平和への思いを語りました。

その姿は、国境を越えた共感と理解を生み出し、会場全体に深い感動をもたらしました。

異なる背景を持つ彼らが、それぞれの視点から「平和とは何か」を問い、共有することで、学びはより深く、より豊かなものへと昇華されました。

